

令和5年度 第2回松本市図書館協議会 議事録

日時：令和6年3月7日（水）9：30～11：30

場所：松本市中央図書館 視聴覚室

【出席者】

委員 6名（鈴木委員、住吉委員欠席）

事務局 10名

傍聴者 0名

【議事録】

1 事務局からの事務連絡

本日の会議は、朗読ふれあいの会の鈴木委員、松本視覚障がい者福祉協会の住吉委員が欠席。本日は8名中6名の委員が出席で過半数を超えているため、会議が成立していることを報告。

2 館長あいさつ

年度末のお忙しいところ、また一昨日からの雪で足元が悪い中お集まりいただき感謝。本日は、本年度取り組んできた事業内容等の説明をするのでご審議をお願いしたい。また、事前にお送りした資料の他に追加で配布をさせていただいたものがある。10月28日に開催された第73回長野県図書館大会の実施報告と大会冊子を改めてお配りした。この大会については皆様のご協力のもと、大会当日、319名の方にご参加をいただき、好評のうちに終了を迎えることができた。ご協力に感謝。特に伊東会長、柳澤先生、馬場委員には大会運営の実質的なところに関わっていただいた。（事業実施報告書の）2枚目にある、「図書館大会報告QRコード」を読み込んでいただくとホームページに掲載されている詳細な報告をご確認いただけるので時間があるときにご覧いただければ。来年度は須坂市が開催地ということで開催内容等、すでに案が作られているようなので、そちらの方もまたご協力いただければ。令和5年度の図書館概要もお配りした。令和4年度の貸出実績等掲載されているので、時間のある時に一読をお願いしたい。前回の第1回図書館協議会で資料を配布した村井駅のサービスポイントについて、今年度市長選ということで、関係する予算が6月補正の市長選後の編成とな

るため現時点で確定したものがない。また2月7日の市議会経済文教委員協議会で松本パルコ閉店後に行政が3階から6階の4フロアをお借りするという事で承認をいただいている。そちらの内容については図書館機能を軸としてとご報告されているところだが、こちらパルコ側に行政が借りる意思があるという返事をした段階で、まだ何も内容が決まっていない。どちらもご報告できる段階になったらお諮りしていきたい。

3 議 題

(1) 報告事項1 令和5年度学都松本子ども読書活動推進事業について

資料1～2ページ 事務局より説明

資料の訂正あり 資料1ページ目 2事業報告(1)ブックスタート事業、セカンドブック事業の表の中のブックスタート事業の行
配布数 1,298 →1,295、執行率 74.1% →74.0% に訂正

その他に本年度からサードブック事業も開始。公立小学校27校1年生の各クラスに学級文庫として今年度5月に配布という記載が抜けていたため追記を依頼。

ア 主な内容

趣旨

事業報告

今後の学都松本子ども読書活動推進計画について

イ 意見・質問

(会長)

- ・ 子ども読書活動推進委員会は存続するのか。今までは推進活動計画を作ったり、その活動を見たりしたが、これからは実働部隊的な委員会になっていくのか。

(事務局)

- ・ 今までと内容は大きく変わらない予定。子ども読書活動を進めてきて、今後どうしたらよいか等一緒に考えていただく形になると思う。

(会長)

- ・ 定期的に会議を持ちながらということか。

(事務局)

- ・ 定期的に、年に2回の委員会は継続して行っていきたい。また随時、必要に応じて作業部会も開催していく予定。

(委員)

- ・ 具体的には今までの会議の持ち方と変わらないと思うが、上位計画という言い方が少し分かりにくい。国が定めた計画が上位にくるということか。どういう意味で上位計画となっているのか。

(事務局)

- ・ 子ども読書活動推進計画というものの上に市の総合計画があり、教育振興計画というものがある。その下に子ども読書活動推進計画という位置づけがあり、その上の計画という感じになる。
- ・ 本日お配りした図書館概要の8ページに、未来プランからの抜粋にはなるが、ページの下に図が示してある。松本市の総合計画というのが、市全体の一番の計画になる。その中に教育大綱や教育振興基本計画があり、図書館に関しては図書館未来プラン、学都松本子ども読書活動推進計画といった図書館の計画、図書館以外にも色々な計画が様々な課で策定されているが、それが総合計画の中に内包されている。お互いに各計画と連携を取りながら齟齬のないような形でやっている。学都松本子ども読書活動推進計画については松本市の教育振興基本計画が大元となっている。国の子ども読書活動推進計画というものもあり、国の計画も上位の計画にあたるが、今回は松本市教育振興基本計画の方に子ども読書活動推進計画に載っている内容を上乘せしていきたいと、上位計画にさせていただいた。

(委員)

- ・ 具体的にはそんなに変わらないイメージだがどうか。

(事務局)

- ・ 委員会の活動自体はこれまでも委員のお力で松本市の子ども読書活動を進めてきた部分も大きくある。計画という冊子を作る業務が減るくらいのイメージで考えている。

(委員)

- ・ サードブック事業について、来年度も小学校1年生の学級に対して、配本がなされるという理解でよいか。

(事務局)

- ・サードブック事業については3年ごとの見直しになっている。3月の下旬に各小学校に職員が回って、本の状態を確認する予定。確認をしてあまりにも汚破損等ひどいものについては、来年度の予算で買替えをする予定。来年と再来年は買替えのみの予算で、その次の年は新たに本の見直しをするという計画になっている。

(委員)

- ・現在、(本が)教室に置かれている状態なので、それは1年生の教室に置いておくものだという案内(指示)を学校の方へかけたほうがよい。これから教室移動になるので、この学年の子たちに与えられたものという認識でいると、2年生の教室に持って行ってしまう可能性もあるため、1年生の教室に置いておくものということで、学校に案内していただけるとありがたい。

(2) 報告事項2 図書館サービスの改善について

資料12～14ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・改善する図書館サービス
 - ・図書館利用登録等の電子申請
 - ・視聴覚資料(CD・DVD・ビデオ)貸出点数・期間の見直し
 - ・資料延滞連絡メール送信サービスの開始

イ 意見・質問

(会長)

- ・3点あるが、一つずつご質問をいただきたい。まずは一つ目の図書館利用登録等の電子申請から。

(委員)

- ・電子申請はすごく便利だと思う。これはいつから実施されるのか。

(事務局)

- ・3月1日からで周知してすでに始めている。

(委員)

- ・どこかに掲示してあるのか。

(事務局)

- ・ 掲示（館内に）と他にホームページにも記載してある。

(委員)

- ・ 今までは図書館に来た際に、有効期間が切れていると教えていただいていたが、今後は事前に利用者にもうすぐ（有効期限が）切れますというメールはいくのか。

(事務局)

- ・ そういったメールはいかないが、利用者ポータルにログインしていただくと利用者の画面の上の方に有効期限が出てくる。これから確認になるが、システム会社に利用者ポータルのところでログインした際にメッセージが出せるかどうかは今後確認していきたい。

(委員)

- ・ 昨今いろいろ言われているが、本人確認書類を簡単に流すということに抵抗がある。本人確認書類というのは運転免許証とかか。

(事務局)

- ・ 基本的には名前、住所、生年月日が分かるものということで、運転免許証とか保険証をお願いしている。

(委員)

- ・ そういうもののセキュリティは安全なものなのか。

(事務局)

- ・ 市のDXで使っている Logo フォームというものを使って申請していただくようにしているのでセキュリティは大丈夫だと思っている。

(会長)

- ・ 次に2つ目の視聴覚資料の貸出点数・期間の見直しについての質問に。

(委員)

- ・ 資料に「視聴覚資料の貸出数が増加しており」と記載があるが、これは高齢化とか年代的に関係があるものなのか。

(事務局)

- ・ 年齢的にいうところまでは統計は取っておらず、分かりかねるが、コロナ渦で家族で…というのも一つの理由にはなってくると思うが、憶測ではあるが。

(委員)

- ・ もう一つ、返却が遅くなっている人たちへの催促というのが、図書館業務の一つで大変だなと思うが、自動送信が流れた場合、その後で返却があった場合、「送信しました」という履歴は自動的に消されていくものなのか。

(事務局)

- ・ 資料については返却された段階でその方の履歴から無くなるため、図書館側も返却の処理が終われば、どんな本を借りていたかは分からないようになっている。

(会長)

- ・ 図書館サービスの改善について、全体で質問、ご意見があれば。

(委員)

- ・ 延滞がたくさんあると思うが、どういう理由で等の分析がされていれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・ 分析まではしていない。

(委員)

- ・ 次の予約が入っていない場合は延長ができるという仕組みを知らないからという理由ならば啓蒙すれば意識の改善につながると思う。

(事務局)

- ・ 周知についてはしっかりとやっていきたいと思う。

(会長)

- ・ 延滞についての質問だが、今までは2カ月経過したら督促の電話をしていたが、今後は3日過ぎたらメールするということだが、今までは2カ月間何もしていなかったということか。

(事務局)

- ・ 予約の入っている資料については、随時電話等行っているが、それ以外については、2カ月経過したものについてリストを出して、職員が書架を確認して、それぞれ電話で連絡をしている。

(会長)

- ・ うっかり忘れもあるので、メールをもらって気付くというのもあると思うので、もっと早くやってもよかったのではと思う。3日後だけでよい

か。2か月後は長い気がするが、1か月後にまた出してもいいと思う。システムを組んでおけば、職員の手間はなく、自動でメールが送られるのか。

(事務局)

- ・3日後で設定はしてある。タイミングは1種類でしか設定できないのと最大何回という設定になるため、3日後の次は1カ月という設定は今のシステムでは機能上難しい。今回は1回のみを送信としているが、反応を見て回数や頻度は調整していきたい。あまりたくさん送っても見逃されることになってしまう。

(委員)

- ・システムは大丈夫だと思うが、抽出も自動でやるのか。リストが上がってきて職員がポチポチやらなくてすむならよいと思う。

(3) 報告事項3 中央図書館トークライブライブラリレー松本の実施について
資料P15～17ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・トークライブテーマ及び招聘講師について
- ・今後の開催予定

イ 意見・質問

(委員)

- ・いろんな企画が出てきてとても楽しみにしているが、3月の企画は図書館に来ていなかったのもあるが、全然気付いていなかった。フェイスブックやSNSの活用、年間予定等を早めにオープンされるという計画はあるか。

(事務局)

- ・SNSについてはすでに活用を始めており、この企画の案内も掲載している。年間の予定については、この企画は「とりあえずやってみよう」という勢いの下始めた企画であり、年間の計画も、毎月第3土曜日を目途に開催をしようということで計画をしているが、リレートーク的な意味合いもあるため、外部講師の方をどなたにということが、確実に何月はこの方をお願いということが決まっていない状況。1回目の講師の青

柳さんにもどなたかにご紹介をお願いしたが、この人というところまではいっていない。また、ここに記載はしていないが、5月は開智小学校の前のお城に抜ける通りに古書店があり、そちらの店主の方と、来年度、新刊の取り扱い書店を独立してオープンする予定の方と、図書館の職員とそれぞれの立場での本の扱いの違いの話ができたらいいと考えている。6月は4月から6月にかけて博物館で戸田家臣団の企画展を予定しているということで、学芸員に話をしてもらおうかと考えている。そこまでは決まっているが、その後は様子を見ながらということだが、予算については、外部講師の方の謝礼は用意しているが、特別に新たな予算取りをしたわけではないため、既存の予算の中でできる工夫をしていければと思っている。また、この企画と同時期に、「暮らしに役立つ図書館講座」ということで2月27日に「初めてのお金の育て方セミナー」という講座を開催した。市と連携協定を結んでいる明治安田生命さんのご協力で新NISAやiDeCo等の講座をさせていただいた。図書館側で関係する資料を用意し、対象の方が20代から50代の方だったので、現役世代の方がご利用できるように、時間の設定も夕方の18時半から19時半ということで開館時間を超えた設定にしたため、大勢の方にご参加いただけて、併せて展示した本も半分くらいは借りていただけた。また、新規登録の方もいて図書館を知っていただく試みとしてはよかったかなと思う。こちらは定期開催ということではなく、不定期で図書館の事業がない時期に開催していければと思っている。

(委員)

- ・トークライブの開催は第3土曜日を目途におっしゃっていたが、今のところ休日に開催されている。これからは土曜日開催もあるか。

(事務局)

- ・講師の側の都合もあるため、基本としては第3土曜日くらいの開催がいいのではないだろうかということで、日程については講師との調整でということになる。初会は企画案が出た最初の時に、日にちまで決めてしまおうということになり、祝日に決まった経過がある。第3土曜日を軸とはするが、講師との調整でもっと早い時期もありえるし、場合によっては平日の開催ということもあり得ると思う。

(委員)

- ・とても面白い、良い企画だなと思った。今年度の県の図書館大会のテーマでも掲げたり、私たちが大会の中で協議をした方向性のようと思うが、図書館の内側からこういうのをやってみたいねという企画が出てきて、それを勢いがあるって試してみるといいなと思った。勢いがある企画は人も集まってくると感じている。県大会での協議がここにつながったとしたら、これに関わってよかったと思う。
- ・周知がもう少しあるといいかなと正直思う。市民タイムス等への活用はしたのか。

(事務局)

- ・プレスリリースもかけさせていただき、3月の企画については、ちょうど昨日市民タイムスに載せていただいた。

(委員)

- ・企画の意図も含めて、こういう活動をしていきたいというイベントそのものの告知に加えて、中央図書館としての意志というか遊び心というかそういったものが記事になって市民に伝わっていくとより良いと思う。広報まつもとに出ていたのは確認させていただいた。信毎も含めて、必要ならテレビ局も呼んでいただいて、メディアに宣伝、広報していただくというスタンスを取っていけばより良いと思う。

(会長)

- ・今のご意見に補足で、館長たちの先程からの説明でどうしてそんなに遠慮がちに説明するのかと思って聞いていた。未来プランの中でこれから図書館をこんな風にしていきたいという一歩二歩が目に見えてきた事業だと思っている。最初に話がでた上位計画での基本計画も色々なところとつながりあって新しいサービスをというところで、図書館に限らずやっっていこうということが書かれている。その意味で関わる皆さんの知識、情報だと思うが、本ばかりではない情報を他の皆さんにつなげるというのは、図書館の胸を張ってやってよい仕事だと思う。新しいところを踏み出した、ぜひ来て！と強めの発信をしてもよいと思うし、そういう位置づけでやっているんだという話をしっかりと図書館として打ち出す。一つ一つのイベントの魅力もなければいけないが、図書館の姿勢が魅力ある姿勢だということもPRの価値があると思う。

- ・ とりあえずやってみようと思えるのはよく分かるのでそれはよいが、やっているうちに、もっとこうするとおもしろい、楽しいというところが出てくるので、臆病がらずに取り入れてよりおもしろいものにしてもらえればと思う。肝はPR。きちんと発信する。行政はポスター張ったからとかホームページに出したからで終わってしまうので、本当に届いているか追いかけることもしない。色んな手立てが今はいっぱいあるので、どの手立ても使ってやるぐらいの勢いでやるしかしょうがないと思う。
- ・ 講師に有名人を呼ぶようなスタイルではない。テーマが魅力的であるということが大事。その意味で松本の中で活動してらっしゃる、ご縁があるくらいまで広げるのか分からないが、松本のことを松本の人たちは知っているわけなので、そことテーマを上手くつなげることで地元を知ることにもなるし、地元の人を知る機会になってくるのも魅力的なことだと思う。そんなテーマ設定なり、PRなりをきちんとしていただけたらと思う。応援したいと思う。ぜひ頑張ってください。
- ・ 講師が講師をリレーでつなぐというのは本当に楽しいし、テレビではよくやっているが、テレビのペースは行政だと間に合わないので2、3カ月後の指名になると思う。その辺も上手く仕組みができるなら仕組みにしてもいいと思うし、図書館だけで講師を探してもジリ貧になる。講師として結びついた人から、おもしろいことやっている人いませんかとか、講演の中で誰々と一緒にやったらおもしろかったという話が出たりしたら、いろんな形で発見があるので上手くつなげるのも一つかなと思って聞いていた。

(委員)

- ・ 往々にして公共の方のやり方は、設定するところまでで息が切れてしまって、その後人を集めてどう盛り上げるかというところになかなか気持ち向かない気がする。例えば、私は子どもの本の関係のことばかりやっているが、分館に行ってみるとチラシがなかったりとか、分館の職員が知らなかったりすることがある。人を集めるのは一人ひとりの声掛けになってくる。本館の窓口、分館の窓口で一言お声掛けするという積み重ねになっていく。作った後のそこが一番大事だと私たちは思っている。一人ひとりの持っている人脈は大きい。分館の職員にも徹底して声

をかけてもらう。本館でも窓口で1階でも2階でも関係なく声をかけて、みんなで図書館でやっているイベントをみんなで盛り上げていこうという気持ちが必要だと思う。忙しいのは重々承知で大変だとは思いますが、活気が出てくると思うし、まずやってみようという精神はとても素敵だと思うので応援している。頑張っていていただきたいと思う。

(会長)

- ・開催することが目的になってしまわないように。開催したことで市民の皆さんが喜んでくださったり、来てよかったと思うところに目的があると思う。段々と次はなにやる、次はなにやるということに追われて、開催が目的化してしまうと何かなあと思うので、ぜひ頑張っていていただきたい。もし、タイミングが良ければ委員の皆さんにも通知だとか、メールで添付でとか何でもいいので、それもPRのうちだと思って。ここにいらっしゃる委員の方もそのうち講師で登壇するような皆さんになるかもしれないので、今のうちから縛り付けておくことも大事だと思う。

(委員)

- ・藤森館長も松本市のシンカチャンネルに出演をしていただいて、露出を増やしていくというのも一つの手かなと思う。

(4) 報告事項4 あがたの森図書館の移転に伴う作業及び特別整理のための休館について

資料P18ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・移転先
- ・休館期間
- ・休館中の対応について
- ・周知方法

イ 意見・質問

(会長)

- ・応援は行くのか。あがたの森の職員だけやるのか。

(事務局)

- ・移転は業者をお願いし、配置等で職員が指示する形になる。

(会長)

- ・以前のところへ戻るといふことになると思うが、場所は同じだが、今度は違ふといふところはあるか。

(事務局)

- ・元の場所に戻るが、児童書一室と一般書一室の二部屋になる。一般書の方に新聞、閲覧席があつたが、利用しやすいように配置を変えた。また一般書の方に机を増やして、窓側の方に学習机を椅子を配置する予定。あと入口の方は観光ガイドとか、見やすいように配置換えをさせていたでいて、来た方が利用しやすいようにと考へた。

(会長)

- ・レイアウトの検討が行われたといふことか。

(事務局)

- ・レイアウトも少し変へさせてさせていたでいた。

(委員)

- ・30年くらい前だと思ふが、伊藤忠記念財団で文庫連絡会の活用に関して、寄贈いたでいたことがあつたと思ふ。その当時としては大きい金額で、確か150万円くらいだつたと思ふが、その使い道をどうするかと協議された時に、分散するのではなく、あがたの森へ、当時あつた紙芝居を全部購入してはどうかといふ案が浮上したらしく、出版社もすごく協力してくれて、結構な数の紙芝居を集めた経過がある。県内でも随一の蔵書数を誇るくらいの紙芝居の量を持っていて、それを歴代の図書館の職員が整備している。紙芝居は希少価値があり、一回印刷すると次の増刷はなかなかされない。昔のものがたくさんあるところは、図書館でもそんなに存在しない。紙芝居については中央図書館よりもあがたの森の方が蔵書が多いと思ふ。今回、移転した際に、紙芝居の部分を強調できるところがあればいいと思ふが、紙芝居の棚とかあるか。

(事務局)

- ・あがたの森図書館は紙芝居がたくさんあり、紙芝居専用の棚もある。今おっしゃっていただいた貴重な紙芝居は書庫にあり、貸し出しができないようになっている。相談させていたでいて、もし見ていただけるようなものがあれば、その棚の所にも出させていたでたく。貸し出しできるか検討もさせていたできたい。

(委員)

- ・昨年、童心社に行ったが、紙芝居の会社なので、紙芝居ホールというところがあり、その裏側に全部紙芝居がストックしてある。紙芝居は印刷上難しいらしく、一回作ると増刷するのが難しい。段々廃れていくものは消耗品扱いになってしまう。消耗品と展示を両立するのはすごく難しいと思うが、ただ後ろに入れておいただけでは使えないし、ある程度期限を区切ってとか、展示する、もしくは貴重品なのでということで貸し出しをすとかしないと、ただ後ろに置いておくだけではもったいないだけだと思う。馬場委員はお使いになるか。

(委員)

- ・興味はある。使えるなら使いたいと思う。大人向けの紙芝居を楽しむ会というのができたら本当に楽しいと思う。

(委員)

- ・子どもだけでなく、高齢者の方にも喜ばれると思う。昔の紙芝居はそういうものがすごくあるので、使ってこそその資料だと思う。一緒になって活用して、お手伝いもしていただいて。読み聞かせの方たちにも資料を見ていただくと、色んなアイデアが出てくると思う。上手く活用できれば、あがたの森の一つの文化となるのでご一考いただければ。

(事務局)

- ・ご相談させていただいて、検討させていただきたい。

(会長)

- ・今の話をライブラリレークでやっていただくとか。
- ・2度引っ越しで、持って行ってまた戻すということは大変な作業なので、怪我のないように気を付けて。

(5) 報告事項5 令和6年度当初予算案について

資料19ページ 事務局より説明

ア 主な内容

- ・趣旨
- ・予算案の概要
 - ・学都松本子ども読書活動推進事業費については最初の説明にあった子ども読書活動の推進に関わる、ブックスタートやセカンドブック、

サードブックに関わる事業費。

- ・人件費については図書館協議会の委員の皆さまにお支払いする人件費
- ・図書館管理運営費については図書館を運営するにあたっての必要な消耗品や光熱水費の関係の予算。
- ・図書館活動費については図書館のサービス提供に係る活動の報償費、講師を呼んだりする謝礼やそれに関わる消耗品費等。
- ・図書館資料整備事業費については図書館で本を買うための予算。
- ・図書館のあり方検討及び長寿命化事業費については改修に関わる事業のための予算。
- ・図書館システム管理費については松本市の図書館をつないでいる、図書館のシステムを業者から借りている予算。またデータベースの借用や図書館の目録を作るためのデータの予算。
- ・負担金については図書館協会の負担金、波田図書館分の光熱水費等。

イ 意見・質問

(会長)

- ・長寿命化のアスベスト調査は終わったと思うが、言える範囲でいいが、どういう結果になったのか。来年度何も予算がされていないということは一旦ストップすると思うが、改修に向けては長いこと話が進んでいない。市の方では30年で改修と言っていたが、途中で10年延ばして40年に間延びした。今がその中にある最中だとは承知しているが、年々傷んでいくのは確かなので、今後の見通しでお聞かせできる部分があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・昨年度劣化度調査をした際に、数か所壁を取って調べたところ、アスベストが含まれている部分があったということで、今年詳しく調査をするということになっている。この1月に調査をしたばかりでまだはっきりと報告書ができていない段階ではある。ただ、壁にアスベストが含まれている部分があるので改修にあたってはそういうところも注意した上でやっていかなければならないと思うが、具体的にどうしていくかはまだ未定の状況。
- ・来年度は基本設計を公共施設マネジメント課がするというので、外部委託ではないため予算計上がない形にはなっているが、パルコの後利用の関係も含めて、中央図書館との機能整理をどうしていくのか、これから市の全体の中で考えていかなければいけない。長寿命化の改修工事は必要ではあるが、他と

の関係があり一足飛びに話が進まないという状況ではある。

(会長)

・設計は市でやれるのか。

(事務局)

・基本設計の部分は公共施設マネジメント課に建築関係の技師がいるのでできるが、その後の実施設計は業者に依頼する。

(会長)

・図書費は削られたということか。

(事務局)

・図書費については、昨年度サードブックに使ったお金と今年度サードブックで使うお金の差額は戻してある。昨年度の予算から戻された。図書購入費に関しては増額になっている。

(会長)

・資料整備事業費というのが図書購入費ではないのか。

(事務局)

・少し補足の説明を。資料整備事業費が406万円の減になっているが、その理由が、あがたの森図書館の移転費用がそこに含まれているためである。

(会長)

・6年度の金額がほぼ実質資料購入費ということでよいか。

(事務局)

・資料購入費とあと消耗品も含まれる。

(会長)

・消耗品とは雑誌のことか。

(事務局)

・雑誌と新聞、あと資料整備のための消耗品。ブッカーや別置シール等資料を整備するための消耗品も含まれる。

(会長)

・全体を通して、言い忘れたこと等あれば、今期最後の委員会になるのでお一人ずつ、図書館に要望なり何でも伝えてもらえば。時計回りで越高委員から。

(委員)

・松本市の子ども読書推進委員会へは前回から出させていたが、今回か

ら図書館協議会の方にも出させていただいて、図書館の機能はすごく大変でこれだけの人数で回すのは大変だということがよく分かった。昨今、会計年度職員が増えている時代にあって、正規の職員の方と一緒に仕事をしているが、正規の職員は何年か経つと異動がある。会計年度の職員の中でもベテランでずっと仕事をしている方たちの図書館愛というのがすごくあると思うので、上手く連携しながらやっていけたら、とってもいい活動ができるのではと思う。長野県内どこを見ても会計年度職員が増えてきているし、この問題をどうしていくかというのは大切に、できれば正規の職員は異動しないでいただければいい。委員をやらせていただいている期間でも人がどんどん変わっていくので、誰かに聞けば分かるというような部分を残していただければ、次の引き継ぎも上手くいくのかなと思うし、今年、とにかくやってみようという動きが出たのはすごくいいことだと思う。とにかくやってみようと思わないと、なかなか元気が出てこない。元気を出してみんなでおもしろいことをやろうよとなればとってもいいことだと思うし、協力したいと思う。委員のみなさんもお手伝いしようと思って参加しているので、どんどん使っていただいて楽しい図書館にしていただければと思う。

(委員)

- ・新しい取り組みがいっぱい始まるのがわくわくしている。館内来る時もポスター見て参加したいなど思っている一員なので、これからもどんどんやっていただいて、今年に来館が確か3万人くらい、かなり大きい数字を上げているので、企画とかで来館者が増えるというのを希望している。委員としても一個人としてもお手伝いしたいと思っている。チラシとかもあらかじめ送っていただければプリントアウトしてご近所のカフェとか置いてないところや、知り合いのところでも啓蒙活動したいと思っている。

(委員)

- ・ライブラリレーやお金の育て方セミナーを見た時に、本を読みに行くとかではなく、本を使うというアプローチの仕方もあるのだと思った。本を読むのもいいが、本を使うという図書館の利用の仕方はおもしろいと思った。裾野を広げる意味でも、ご協力できることがあればお手伝いしたい。

(委員)

- ・トークライブの話を聞いて、人選の仕方もおもしろいし、次の方を紹介してリレーしていくという方法も新鮮で、これからの予定も聞いたらと

ても新鮮でおもしろいと思った。お金の話も年代が限られているが、あれがもっと小さな学年の方たちに伝えるというような、年代層を変えてもおもしろいと思った。また、3月10日の美術館の企画も行きたいと思ったが、予定が入っているため残念に思った。すごく興味をそそられるような内容があるので、松本市は大都市でもないし、小中の都市としての良さも持っているので、興味を持っている人を引き込んだら活発になるのではないかと思う。

(委員)

- ・学校教育関係者ということで1号議員という名の下に1期目ではあるが務めさせていただいた。この委員という立場ではないが、今年度長野県図書館大会の運営企画から携わらせていただいて、協議したり一緒に運営できたことが、やってよかったと思う。
- ・テーマだったり、大会として目指す方向性の一部が、この図書館の今後の活動に表れてきているとしたら、携わった身としては幸せに思っている。
- ・今年度で退職となり、1年で交代となる。また新しい委員が校長会の方で選出されて連絡がいくと思うのでよろしく。
- ・学校との連携を図っていくのに、単にメール配信とか案内だけだと伝わり切れないところがあると思うので、これはという時はぜひ校長会に来ていただいて、そこで市教委の説明の前の所でPRしていただくと各校に浸透しやすいだろうと思うので、上手に使って行って欲しい。
- ・松本市の図書館の組織の在り方も独特だと思う。中央図書館の名のもとに各分館があるという形になっている。この独特な形ももっとアピールしてもよいと思う。どこに行っても同じサービスが受けられるということは大事なところだと思うが、そこでないと味わえないものがあるところをさらに追及していただくと、利用者がそんな目線で各館を追うことができると思う。学校も同じで、そこでなければいけないものを目指してここまでやってきた。そういった観点も取り入れていただけたらと思う。
- ・会計年度職員の文言が先程出てきたが、会計年度職員の待遇改善も上げて行って欲しい。行政は縦割りなのでそれぞれで動いているしかないが、それぞれの職場で働いている人が、地域で働いている会計年

度の方々が気持ちよく働けるように待遇改善をさらにしていっただけたらと思う。

(会長)

- ・今は人手不足で、学校の先生もなり手が無くて困っている。病院や介護施設も人ごとではなくて、県内の図書館もいくつも募集中で、4月から欠員状態でスタートせざるを得ない危機に陥っているところがいくつもある。例えば10人でやっていた図書館が、8人でスタートして、何とか頑張ってしまうと8人でも大丈夫だとなりかねない。そうすると2人いてもやれてなかったことは、もう絶対できない図書館になってしまう。なかなか理解を得られない。待遇改善含めてその辺のところは基盤なのでしっかりやっていただきたいと思う。
- ・新しい歩みがスタートし始めていることが一番うれしい。松本市の図書館は近隣市町村に比べると職員数はあると思う。できるだけ職員で共有し合って欲しい。今読んでいる有川浩の「県庁おもてなし課」を思い出した。行政の縦割りを辛辣に描かれており、苦笑いしながら読んでいる本だが、行政はやらない理由、できない理由をすぐ探す体質がある。そんな時間はもったいないので、やることをいかにやるかということに時間を使ってもらえれば。その結果ができなくてもしょうがない。前向きないい仕事をしてもらえれば嬉しいと思う。
- ・委員からいろいろと具体的な提案がいくつも出ていたのでぜひ会議録作って終わりではなくて、その中のいくつかは具体的にコンタクトを個別に取ってもらってもよいので、何かできるものはしていただくということも考えてもらえればと思う。

4 閉 会